



新聞通貨論 第一







通貨論第一

大正十一年四月  
隈侯爵

本月二日ノ紙上ニ於テ余ハ商業ノ景況ト題号セル  
 一稿ヲ記シテ日本國カ当年ニ贏ケ得タル總額ノ大  
 利モ六月以來登頭シメル為換登貴ノ為ニ非常ニ  
 減殺セラレタルノ実況ヲ述ヘタリ觀ルベシ當時  
 終ノ代價トシテ拂ハレタルノ貨幣ハ(即チ弗ノ章一  
 )少クトモ平均四シルリング四ヤンスノ割合ヲ以  
 テ勘定セラレタルニ相違ナキニ其弗ノ相場ハ僅カ  
 ニ三シルリレク十ヤンスニ過キカリレド是レハ  
 殆ント一割三銖ノ割合ニシテ日本人民ノ囊裏ヨリ  
 減除セラレタルモノナリ若シ銀貨ナシテ歐洲ニ於  
 テモ同様ニ登貴セシムルノ事發シリナバ何レ此事  
 ニ付キ噴々若情ヲ述フベキ

然レ此年



輩カ以年々為驗セルカ如ク

此際ニ當

テ登貴カサルニ付キ基テクモ人々ハ其意  
ヒタル如ク、代價ニ向テ多ク、溢價ヲ拂ヒタリ況  
シヤ其銀債一時能ク登貴スルモ其地金ト適正ニ割  
合ニ復スルハ數月ヲ經ルヲ俟タサルニ付キ更ニ一  
割若クハ一割三銖ノ減價ハ豫メ想定シ得ベキ所ナ  
リ日本國ガ絹絲ノ為メニ利セルヤ大ナリ且、絹絲  
賣買ノ熱鬧ナルヨリ貨幣ノ多量ヲ要スルニ付キ前  
ノ價ヒ登貴シテ多數ノ帛ハ歐人カ初メ日本ニ供  
シ時ト同様ナル高價ヲ以テ歐人ニ返流セシムル疑  
ヲ容ルヘキニ非ラズ故ニ余ハ強テ日本國ノ絹絲  
債ノ為メニ二割若クハ二割三銖ヲ損失セリト云ハ  
ント欲スルニ非ラス然レモ通用貨幣ノ紛雜ナルヨ

リ其利益ハ大ニ減殺セラレ、一著明タルニ付キ余  
ハ今マ此貨幣ノ有様ハ將來此國ニ期望スル所ノ商  
業ノ確實ナル妙機ヲ發出シ得ヘキ根據ナレバ否  
ヲ推究セハルヘカラス總テ一割ノ得失ヲ正斷スル  
ハ之ヲ其榮昌ノ時ニ期スヘカラス之ヲソノ危急  
迫タル時ニ期スベキナリ今マ日本ノ地位ハ此  
ノ時ニ臨メリ故ニ余ハ日本ノ現況ハ真理ニ  
カ將々貨幣ノ遲鈍ナルカ為メニ得ル所ハ其損失ヲ  
償フ能ハサルヲ見ルニ在リ  
今マ茲ニ述フル所ノ誤謬ナラサルヲ證セシ  
メ去ルニ月間茶ト絹トノ帛ト母本ノ内ニ拂ヘ  
渡サレタル八九百万帛ノ貨幣、何レ記賦  
ベキモノヲ檢定セシメヨク其弊



拂と段々... 然し... 分と  
マキヤ興ノ差額... 全ク内地  
全ク港地ニ封入セラレタル墨銀... 若シ此貨幣  
地通用ノモノナリセハ必ズ内地幾多ノ川流ニシテ  
シテ貨物ノ交易ヲ通暢活潑ナラシムハシ然レドモ  
地ニ通用セサル墨銀ナルニ付キ此貨幣ハ是非トモ  
港ニ累積シテ再々外國ニ溢流セホルハ  
商茶商ハ内國銀行ニ之ヲ齎ラシ之ヲ紙幣ニ交  
紙幣ヲ内地ニ贈輸スレ故ニ紙幣ノ要求多ク洋  
ノ過多ナルガ為メニ紙幣ハ六銖七厘五毛程ノ溢買  
ヲ為スニ至レリ蓋シ紡績人及ヒ製茶人ノ給料ハ  
ク平均ノ價ヲ以テ仕拂ハレタリ借地料及ヒ租税  
クハ器械燃料食料等ニ費セル金額ニ就テハ其十分

ナル田價ヲ拂ヘリ然リ而シテ産物ノ價ナレ百四ニ  
付テハ彼ノ商人ハ其代理ヨリ輸送ノ事アルカ為メ  
ニ僅カニ九十三四二十五錢ヲ受ケ取リクルニ付テ  
其利益ハ莫大ナリト云ハ大ニ交換ノ為ニ剪截セサ  
ルハカラス故ニ港地ニ於テ受取リタル幣ヲ高價  
受取リ之ヲ低價ニ賣捌クノ損失ト同アリテ地  
入費ハ其利益ノ一部ヲ蒸發セシムルモノナリ  
此蒸發ニ定限アルベシト云ハ其通用セル貨幣ハ如  
此キ弊害ヲ含有セルモノナリト商人ハ嗟嘆ス  
ルベシ  
故ニ此禍害ノ港地通用ノ貨幣ハ内地通用ノ貨幣  
同一ナラザルニ根スルナリ  
然レモ其言ハ此ニ止  
内國



＝集心スルニ於テ  
憶フニ彼等ノ輸入物取扱人  
債附ケルニシテ時輸入品ノ買入ハ  
質ヲ存スルニ何トナシハ消費ノ要求  
ナ内地ニ送レハ必ス賣捌ノ道アル  
出テタレハナリ洋銀債物ノ求需ノ  
ナリ人カチ以テ一時ニ擴張シ得  
恐ラクハ多量ノ資本ヲ賣ルベカラ  
スルノ憂ヒアルニ是レ實ニ日本ノ  
テハ有害ナルトニテ物價ヲ下落シ  
シ従前堅実ニシテ信用スルキ商  
クニ至ルベシ  
故ニ銀行ニ於テ洋銀過度ニ累積  
スルヲ豫防セシカ

為メニ政府ニ於テ宜シク施行ス  
ニ於テ洋銀券ヲ發行シ洋銀ノ買  
銀行ナレテ洋銀ヲ買ヒ入ル、  
テ洋銀ヲ政府ニ収ムルヲ肯セシ  
ルサ、ルベカラス此處置極メテ  
ナレハ一弗ノ洋銀券發行ニ付テ  
テ大藏省中ニ收入スレハナリ且  
益アルベシ目今政府ノ紙幣ハ甚  
スルニ付キ其弗ヲ買フニ其價ハ  
以テ弗ヲ買フノ價ヨリモ安シ此  
價ト上ケ之將來割引ノ減セテ  
引上ケルルハ甚タ利益アリハ  
政府ノ手ニ其間ニ入ル



貨幣ハ自  
ラサレナシ然レ大藏省ハ一  
幣ノ利通ヲ督査シ甚々利益  
テ十分ニ徴証シ得ハキナリ  
余ハ今マ目下ノ商業ヲ圍遶セルノ弊害ヲ救藥  
セテ商人及ヒ大藏省ニ利益アル方法ヲ述ヘタリ然  
レ此方法ハ誠ニ一時ノ方便ニシテ當今ノ如キ通  
貨ノ有様ニテハ時々之ヲ施行セサルハカラガリ  
ナリ此一事ヲ以テモ現時日本ノ貨幣ハ甚々混亂  
錯雜ノ有様ナル下ノ熟知シ得ハキナリ余カ既ニ論  
セシ如ク貨幣ハ其性質堅実ナル片ハ自ラ序理スル  
ノ性アリ如何ニシテ序理スルヤハ余之ヲ後篇ニ記  
スレ唯タ現時ノ景況ニ付テ必ズ發出スルヤキ惡果

ハ茲ニ述フル所ヲ以テ十分ナルベシト信スルナリ

歳



ノール新聞抄譯通貨論

第二號

大  
義  
書



通貨論

第二篇

十八

余ハ前號ニ本年日本人カ國產ヲ販賣スル最

ハシキ時ニ當テ非常ニ為換ノ騰貴セル故ヲ以テ其

利潤ノ大ニ減殺セラレタルトニ着目シ而シテ如此

ク利潤ノ減殺セラルハ現今實際國產ヲ販賣スル

ニハ必ラスシモ墨銀此墨銀ナルモハ供給ニ限

ニ需要アルハ重キ昂低ニ交換セハルハカラサレノ

故ヲ以テナリト陳述シタリ

本年墨銀ノ需要ハ非常ニ大ナリトス如何トナ

素ヨリ墨銀ノ其性質ハ劣リ故ヲ以テ全ク不足

量目ノ草銀ハ其性質ハ劣リ故ヲ以テ全ク不足

ハ草銀ノ性質ハ劣リ故ヲ以テ全ク不足

ハ草銀ノ性質ハ劣リ故ヲ以テ全ク不足

ハ草銀ノ性質ハ劣リ故ヲ以テ全ク不足

ハ草銀ノ性質ハ劣リ故ヲ以テ全ク不足

ハ草銀ノ性質ハ劣リ故ヲ以テ全ク不足

ハ草銀ノ性質ハ劣リ故ヲ以テ全ク不足

ハ草銀ノ性質ハ劣リ故ヲ以テ全ク不足



騰貴セリ

証ナリ

日本人ノ手ニ入りタリ  
數百ノ墨銀ハ准日本ノ數  
港ニ於テノ合法貨下レテ流通ヲ限ラレタルモ  
ナレハ日本ノ金銀貨ト全シク流通スルモハニマ  
ハルナリ

又此等ノ墨銀ノ一片スラモ製絲人又製茶人ノ蒙中  
ニ入テサルノミトナス尚ホ此等ノ生産人ハ物産ヲ  
販賣シテ請取りタル弗ヲ紙幣ニ引換ヘルニハ重キ  
溢價ヲ仕拂ハサルハカラス如此ク紙幣ニ引換ヘル  
ニ前週期ニ於テハ六銖七厘五毛ノ溢價ヲ仕拂ハサ  
ルヤカラス依テ生産人ハ百弗ノ價ヒアル絲又茶ニ  
賣リ捌ニハテ如此キ溢價ノアル間々ハ通貨ニテ終

條約ヨリ六十

二十九十三廿二十五「セン」トヨリ多クテ得ハカテサレ  
「明」テカナリ

十九

蓋シ当地ニ於テ通貨ノ價ヒ騰貴セハ随フテ内地ニ  
於テモ全シキ結果ヲ生スルニ至ルベシ然レモ  
人カ資本ノ借用シタル約定ハ到底同額ヲ以テ返難  
セザルハカテサルモノナレハ生産人ハ紙幣ヲ得ル  
為メニ溢價ヲ仕拂ヒタルモ遂ニ其賠還ヲ請取ルノ  
道ナカルヘシ看ヨ生産人ハ百弗ノ仕拂フハキ負債  
アルニ其手許ニハ唯、九十三弗二十五「セン」ト  
有スル「チ」  
右ニ論スル取リ生産人カ僅ニ五十弗ノ元金ヲ以テ  
運送シタル線カニ常ニ相違  
貴セル故  
意ヲ述ベニ不欲

大

義

省



六ルニ...  
ヲ得...  
レタリト云フ...  
今眼前ニ如此キ...  
推究セス又之ヲ改正セサルハ無氣無カノ極度ト云ハサレハカラス

若モ一方里外へ貨幣ヲ廻送セントスルニ当リ如此ク為換ニ溢價ヲ拂フト云ハ誰カ之ヲ以テ甚々非常ナリ又不法ナリト云フヘケンヤ然レモ生産人ハ市場ヨリ僅カ百里内ニ居住シ又市場ヨリノ書ハ三十時々間ニ到着シ又電信ハ三十分時間ニ到着スル以上ハ堂之ヲ非常ナリ又不法ナリト云ハガレハケレヤ

十

依テ余カ...  
廻送スルニ當リテ斯ル驚クヘキ溢價ヲ仕拂フハ生産人ニ取リテ全ク道理外ノト云フヘシ若シ通貨ナレテ不正ナル有様ニ差レ置タラニハ此溢價ニ常ニ現存ニバク又時々發起スヘキモノナリ  
余ハ既ニ紙幣ヲ増殖シテ此溢價ヲ減少スルハ真正ノ事トシテ政府ノ宜シク行フヘキ舉クルヲ述ベタリ何トナレハ則チ政府ハ箇様ニ増殖シタル通貨一帯ニ向ツテ銀貨一帯ヲ金庫ニ納メシムトバトリ他ノ主意ニ基キテ考フレハ如此ク紙幣ヲ増殖クハ不正ニシテ甚々利息スヘキナリト云モ前論ノ如キ確突ナルニ意基...  
余カ前...

子



尚ホ其利益トシテハ  
抑モ其溢價ナル  
ノナルヤ  
流通紙幣ニ溢價アリハ一國ノ商業ニ向  
ワテ流通紙幣ノ適否如何ヲ見ルノ確証即ハ其尺度  
タルカ如シ譬ハ流通紙幣ニ割引アルハ其割引  
ノ額ハ即ハテ流通紙幣ノ餘分ヲ指示ス尺度ナリ而  
シテ流通紙幣ニ溢價アルハ其溢價ノ額ハ即ハテ  
流通紙幣ノ需要ニ對シテ流通紙幣ノ不足ナルヲ  
指示スル尺度ナリ  
斯ク紙幣ハ為スヘキノ事務甚ク過多ナルヲ付キ之  
ニ溢價ヲ附シ当然紙幣ニ屬スル價トヨリ一層多ク  
ノ價トシテ用セシムルニ非ラサレバ此事務ヲ辦ス

ル能ハガレナリ  
余ハ素ヨリ道理上ニ於テモ實際上ニ於テモ唯通貨  
ノ流通ノ事ニ付テ大藏省カ干預スルヲ主張スル者  
ニアラサルナリ此等ノ弊害ヲ全ク救済スルモノ  
如此キ大藏省ノ干預ヲ要セスレテ法則ニ合ヒタル  
一ノ通貨ヲ用ユルヲ以テ足レリトス然レモ日本ニ  
於テ如此キ正実ノ通貨ヲ得ルニ至ルマテハ常ニ大  
藏省カ之ヲ序理スルノ方法ヲ施行セサルハカテサ  
ルモノアリ  
現今ノ事情ハ日本ハ一損害ヲ與フルノ形路アルヲ  
テ説明シタ付余更ニ反對ノ事情ニ於テ外國  
人カ損ハキニ著目トス  
幣ノ供



テ弗ハハ  
テ弗ハ如此  
ハトカ如此  
内ニ騰貴シテ溢價ヲ得ルニ至ルベシ而シテ外國ノ  
商人ハ從前弗ニ非常ノ需要アルニ當テ弗ノ相庭與  
金ノ價ニ以シテ騰貴マレニ付キ日本ノ商人ニ此  
テノ弗ヲ仕拂ヒシト全様ニ今物品ヲ輸入スルニ  
當リ是迄ヨリ些少ノ弗ヲ日本人ヨリ得ルニ至ルハ  
シ實ニ日本人ノ今日ニ苦ハ所口ハ外國人ノ明日ニ  
苦ム所ナリ此故ニ墨銀ノ餘分ナル井ニ當テ日本人  
ノ頭上ニ墜落シ來ル所ノ損害ハ墨銀ノ乏キ井ニ當  
テ外國人が苦レ一所ノ損害ナリ  
外國交際ニ初年ニ於テ墨銀ハ貿易交通ノ為メニ最

ナ十二

ニ便利ナリ貨幣トシテ採用セラレタルナラン然レ  
トモ今ヤ日本ニ於テハ内國又外國ノ貿易ニ向ツテ  
ナミナラス尚ホ大ニナル目的ニ向ツテ相当スハキ  
造幣局アル以上ハ何ソゾ墨銀ノ如キ日本ノ通貨ニ  
モアラズ開港場ヨリ一里外ニモ流通セス且ツ多量  
ニ要用ナル井ニハ其供給ノ不充分ナル貨幣ヲ以テ  
長ク商業取引ヲ成スヲ要セシヤ依テ此事ニ付テハ  
毫モ善キ道理アリト成シ難ク且此事ヤ日本人並ニ  
外國人ノ意ニ甚タ連カニ解セサル不條理ヲ含蓄セ  
リ然ル井ハ如何ナリ措置ヲ以テ正理ニ適セルモ  
トスハキカ合テ想フ實ニ終優ノ有様ヲ恢復ス  
テ



第

引換

高ス

第一条 日本国ニテ金本位トシテ採用スルハ不当ノ地  
 位ナリトスレハナリ依テ金ヲ單位トシテ採用ス  
 ハ日本国ニテ金本位トシテ採用スルハ不当ノ地  
 位ナリトスレハナリ依テ金ヲ單位トシテ採用ス  
 ハ真理ナリト云ハザルナリ

現時ノ大藏卿カ英米ノ為ス所ノモノヲ以テ至当ナ  
 リトセハ随ツテ將來ノ大藏卿モ亦日耳曼及和蘭ノ  
 轍ヲ蹈ンテ如此キ思想ヲ抱クハ依テ若モ日本国  
 カ歐羅巴国ナレハ此等ノ大藏卿カ如此クニ決定ス  
 ンテ誰ニテ不可ナリトスベカラザルモ今ヤ日本

ナ十三

ハ東方

国ナレハ

恐クハ

東国ノ

地位ニ

留ルベシ

抑壓専制ノ諸国ニ於テハ往々意外ノ事業ヲ為シ  
 ハシト金モ一ノ日本国ノ地位ハ亞細亞ノ圍籠ヲ  
 蟬脱スベカラザルヲ知ラハ銀貨ヲ取ルノ最モ適  
 セルト著明ナリ然ルニ英米二国ノ既ニ施ス所ノモ  
 ノ及ヒ和蘭日耳曼ノ將ニ施サントスル所ノモヲ  
 以テ甚タ至当ナリト假想セラレタリ抑モ此等ノ  
 各々歐羅巴国タル地位ニ在テ其地位ニ相当ナル  
 ナシタルナリ然ルチ日本国ハ妄想ヲ以テ英米ト  
 全シ地位ニ達セシテ欲シテ英米カ為セシ所ノモ  
 ナ為シトスル所ノ意ヲ大ニ感動セラレタルハ  
 深クハ疑フ所ナリ

右レ英

日



正シク

如

民ハ断然左ク云ク  
キヤクハ充分ニ  
他國ノ諸國ハ他國ヨリ宜シク其好ム所ヲ為スバ

シ何ゾ他ニ関セシ我國ノ地形ハ亞細亞大陸ト全  
シケレハ全シ本位ヲ用ヒ時々之ヲ大陸ニ供ス又  
之ヲ大陸ニ仰クヲ利トス

現今支那ノ商法上ニ於テ非常ニ貨幣ノ供給ヲ求  
需スルハ墨西哥或ハ南米ノ共和國ヨリ之ニ給  
供セリ以後ハ我國ニ於テ之ニ給供スヘシ而シテ  
我國ニ必ス利益ノ途ヲ見出スベシ若シ金貨ヲ鑄  
造スルハ支那人ハ地金ノ價ヲテハ金貨ノ價  
ヲサシメ是レ果シテ我國ニ何等ノ利益アルゾ

ヤ我ニ取リテ確實ナル利益アリトスル 教訓ヲ

歐洲ノ諸國ニ法ルハ勿論ナリト金貨決シテ模倣  
セントトノ主意ニテ此等ノ諸國ニ模倣スルニアラ  
ハルナリ自國貧衰シテ笑ヲ世ニ受ク是レ常心ナ  
キニ非ラスレテ何ゾヤ

現ニ金貨ヲ本位トシテ金貨ヲ鑄造スルニ付如何  
ル損失アリシヤヲ推測スルニ金ノ四分ノ三ヲ塔能  
シ其鑄造ノ費用ハ永久ニ日本國ノ損害トナリタリ  
故ニ銀ヲ本位ト定ムルハ甚々確論ナリ然ルニ此論  
ノ全ク拒絶セラレタルハ豈ニ歎スベキニアラズヤ  
然レトモ外國ノ人民ノ貿易ノ上ノ媒物トシテ日  
本ノ金貨ヲ領事ノ手ニシテ外國ニ出スルニ

此通貨

其島



及七海 通貨 如非不然レトモ日本ノ造幣局ヲ指揮スル間タバ  
如此クナサレト欲スルト益凡無益ナルハ聊カ疑  
チ容レザル所ノモノナリ

外國ノ造幣者ヲ雇フハ日本ノ榮譽ヲ汚カスハキ  
將タ何人モ日本ノ貨幣ヲ採用セザルヲ以テ日本ノ  
榮譽ト為スハキカ又上海香港福州聖架堡汕頭等  
テ日本ノ貨幣ノ希望セザルヲ榮譽ト為スハキカ余  
ハ之ヲ以テ齋ヤスハカニナルノ疵傷ナラントス  
日本人ハ大阪ニ於テ外國ノ造幣者ヲ雇フチ不快ト  
云ベキモ夫レテ不快トスベキ謂ハレナレ又現今ノ

六藏卿

如クナラハ我輩之ヲ保証セリ 外人ノ必  
ラズ「モル」氏ナラバレ又此造幣者ノ盡カ  
チ以テ西細亞地方ヲ通シテ日本政府ノ貨幣ニ信用  
ヲ生セシムルハ美事ナラザルカ將タ此貨幣アルヨ  
リレテ日本回ノ信用及ヒ面目ヲ海外ニ喪カシ此貨  
幣ヲ以テ西細亞ヲ蕩平スルハ美事ナラザルカ  
縦令今日此貨幣ニ「レ」ナルノ畫像又表書ナキニ數  
年ノ後ニハ彼カ如キ畫像表書ヲ印スルニ至ルベ  
而シテ此貨幣ハ利益アルニアラサレバ一切日本回  
チ離ルベカ又直交或ハ間接ノ利益ヲ以テセガ  
レバト「流通セザル以上ハ貨幣」

媒物

潤



新聞抄譯通貨論 第三

抑て日本ノ利益ト併シ難キハ負尊大ノ感覺ヲ拒  
 絶シテ日本ノ利益ヲ計ルヲ以テ真ノ愛國心トナカ  
 ナルカ  
 西ノ最  
 意  
 目的



新聞抄譯紙幣交換論第三

吾輩カ前論ノ二條中ニ於テ吾看客ニ開陳ヤレ通貨ノ事ニ関セシ條件ハ即左ノ三件ニ止レリ

第一 本年日本人民ハ我輩外人トノ貿易上ニ於テ正レシク占領シ得ハキ所ノ利益ヲ大ニ減損セリ其歸着スル源由ハ貿易上通貨ノ性質其宜キナリナルニ由レリ且又之カ為ニ外人モ亦等シク損害ヲ蒙ル

第二 日本ハ日本國ノ通貨ニ非ズ日本人民ハ内國需用ノ通貨而已ナラス我貿易上ノ通貨ニ供スルニ充分餘リアル洪大ノ造幣局キ有スル故ナラニ日本ハ其國貨ノ實價ニサモ甚大



ノ昇降ヲ受クル事此等ノ誤ヲ以テメキニコレ等ハ  
日本貿易用ノ通貨ニ適セサル  
第三 開港場ノ貿易賣買ハ日本國ノ通貨ニ用イ  
ザルベカラサルト此通貨ハ固定ノ重量アルトナ  
充分ニ保証シテ鑄造セル日本貨幣ニシテ外國買  
易用ニ不足ナキ様多量ニ鑄出スベシト  
前二回ニ於テ開陳セシ條件ハ概畧右ニ掲クルガ如  
シ今ヤ吾輩ハ日本國ノ通貨制度ヲ改革シテ新タニ  
其基礎ヲ設置セサルハカラサルノ要件ヲ論セント  
欲ス而メ吾輩ノ了知スル所ノ事實ニ依テ之ヲ微ス  
ル片ハ此変革ハ如何ナル方便ニ依テ能ク為シ得ハ  
キヤ又ハ此変制ニ由テ如何ナル危難ヲ醸生スハキ  
ヤ而メ本然ニ之ヲ豫防セシト欲セハ如何ナル預備

之ヲ用ニハキヤ聊カ其意見ヲ開陳セン  
第一 詠國ノ重要ナル通貨ハ不交換紙幣ナリ我輩今  
不交換紙幣ヲ通貨ト為ストキハ随テ生スベキ所ノ  
弊害ヲ表明セシガ為メニ世上一般ニ其意見ヲ是ト  
スル博識名家ノ説ヲ引証スヘシ  
吾輩ハ此引抄ヲ為スニ臨ミ先ツ我詭者及ヒ日本讀  
者ニ刺激スヘキヲアリ凡ソ人事上紙幣ノ如ク斯ク  
偽詐奸謀家ノ思想ヲ逞フシ論説ヲ恣マナラシム  
ル場ナカラニ實ニ此論場ノ如ク機知者流ノ自ラ信  
任シテ随テ斯ク至大ノ弊害ヲ醸ス所ノ妄説ヲ呈セ  
シ者ナカラニ蓋シ知先生ハ「テセヨス」流ノ理字者ヲ  
急取リテ世人ニ向テ謂テ曰余ハ羽翼ヲ着ケテ空中  
ヲ翔ルノ妙術アリハ能ク其妙技ヲ得ニシト巧言



飾辭以テ欺キ易キ徒ニ籠絡ヲ得ハ然レモ此生  
知先其ハ羽翼ヲ着テ空ニテ翱翔スルハ自己ノ骨  
髓ヲ碎クモ肯テ他人ニ傷ケサルハレシ之ニ似タル機  
知者流ノ方畧モ堅キ其區界狭小ニシテ疾ク其慘毒  
ヲ世上ニ流スニ至ラサルナリ斯ル輩ハ固ヨリ數フ  
ルニ足ラズ紙幣主張者ハ其人トナリ無知文盲ナル  
モ能ク其奸謀ヲ逞マシウスルニ至リテハ此等ノ類  
ニアラス其慘毒實ニ懼ルマク疾ムハキモノナリ其  
勢焰ノ盛大ナル彼ハ帝國ノ人屋ハ一戸モ残スナ  
ク逐次其家々ニ襲入シテ日夜孳々ト働ク所ノ勉強  
車ニハ油ヲ叙スレテ却テ砂礫ヲ散置シテ其力ヲ滯  
滞スレ即債主ト負債主トノ間ニハ結怨敵視セシ  
メ貧者ヲ掠奪シテ富者ノ掌上ニ弄セシメ実ニ人々

ナシテ生計ノ目的ヲ失セシメテ益々貧苦ノ境ニ陷  
ラシムルニ至レシ我輩ハ此意見ノ誇大ナラサルヲ  
証明センカ爲メ次ニ經濟學者及ヒ政事家ノ金言ヲ  
引説スレシ

彌爾氏曰及令國法ノ許認スル所ニモセヨ不交換  
紙幣ノ造製ニハ敢テ制限ナキ者ナリ其發行數益  
々多ケレハ随テ物價ノ騰貴愈甚シカルハレシ之ヲ  
詳言セハ通貨ノ低落底止スル如ナカルハレシ蓋シ  
不交換紙幣發行ノ権力ヲ何等ノ人物ニ擔任セシ  
ムルモ實ニ堪忍シ難キノ蔽害ヲ生スレシ  
以テボニス氏曰從來一回政府ノ會計上極メテ困  
難ナル景況ニ至テ不交換紙幣ヲ發行スルハ内債  
ヲ強募スル便且方法トメ徒々此策ヲ呈進シク



リ此策畧ニ据ルハ人民ノ囊裡ヨリ容易ク貨幣  
ヲ誘出シテ果シテ政府ノ國債ヲ減少スルヲ必セ  
リ政府ハ斯ク利スル時ニ際シ世間銀々ノ負債者  
モ又強テ其債主ノ囊中ヲ掠ムルヲ得ハシ実ニ人  
民各自ノ約束及其貧富ノ關係ヲ保護スルコリ國  
ニ政府ナル者ヲ創立スルノ主眼タルニ斯ク漫ニ  
人民各自ノ約束上ノ事ヲ破毀スルハ已ニ前途ニ  
期スル所ナキ絶望政府ノ所置タラシ  
ワートルバーレホット氏日凡ソ政府ノ發行シタ  
ル不換紙幣ハ自然ニ多額ヲ發スルニ至ルヤ必セ  
リ合衆國ヲ以テ其例昭々タリ而シテ金貨ニ對シ其  
價ノ減落スルハ是ニ当然ナリ之ニ由テ不交換紙  
幣ハ百價ノ價值ノ權衡ノ錯乱シテ大ニ賣買上ノ

妨害ヲ為スハ果シテ債主ヲ欺騙スベシ又負債主  
ヲシテ不相与ノ價額ヲ得セシムハシ  
譯者日他ニ諸大家ノ引抄多シト金モ亦不交  
換紙幣ノ國安ヲ害スルノ一邊ニ止ルヲ以テ之  
ヲ畧ス  
吾輩ハ今不交換紙幣發行ノ為ニ殊更ニ醸生スル  
所ノ蔽害ノ條件ヲ爰ニ挙クベシ第一其國ノ信用ヲ  
妨害スルヲ左ノ如シ  
合衆國ニテ其蔽害更ニ甚シカリキ夫合衆國ハ新  
開ノ疆域ナルカ故ニ其度支ニ窮迫スル所ハ固ヨ  
リ旧國ニ依テ之ヲ借ラサルヲ得不然レハ旧國ハ  
合衆國ニテハ必テ不交換紙幣ノ際限ナク發行  
アランヲ推測シテ之カ為ニ辟易シテ肯テ之ニ

裁省



金銭ヲモ債サ

キ為ノニ此部諸州ハ

能ハカリキ  
「銀行始ノ街名此街ニ共倫ニ於テ一銭ノ債ヲ募ル

「タニールウエプスル氏或時謂テ日合衆國ノ信用ハ既

ニ世上ニ於テ死去シタル者ヲ蘇生セシメタルハ

レキサンドルハミルトン氏ナリ蓋シ此著明ナル演

説ヲ登スルノ因由ハ職トメハミルトンカ紙幣交換

ノ策畧ヲ成就セシニ因ルモノナリ

第二不交換紙幣ヲ発行スル片ハ定額外ニ之ヲ濫發

スルノ弊アリ今例ヲ掲ケテ之ヲ明解セシ

一千八百六十七年合衆國ニ於テ回立銀行條例ヲ設

テ不交換紙幣總額三億万弗ノ發行ヲ許可セリ同七

十年六月ニ方テ又五千四百萬弗ヲ允可セリ而ノ方

今ニ於テモ猶紙幣増製ヲ主張スル黨アルヲ以テ尚

將來發行スルノ憂ナシト云ヘカラス澳利亞國ハ魯

西亜及ヒ意太利ノ如ク發行尚陸續トメ斷ハサルヲ

以テ呻吟ノ聲野ニ鳴動ス

博士「ソム子ル」氏曰凡ソ万国共ニ平生不交換紙幣

ヲ使用スル國ハ預メ其發行ノ額ヲ定メテ世上ニ

向テハ後來必此定額ヲ超越セサレトテ誓フ然

レ氏此等ハ素ヨリ架空ノ誓フナリ蓋シ其誓約ヲ

為セシ時ノ素志ハ真正ナルベシト虽モ後來果シ

之ヲ履行スル能ハス

余カ前條ニ引抄スル所ハ有名ナル碩学大家ノ意見

ニノ允經驗上ノ學問日ニ月ニ進歩スルニ隨ヒ虚説

無誓ノ妄説ハ埋没シテ隨テ終ニ其著者ノ名モ亡



ルニ至ル之ニ及レキ正ノ道理ニ摘登スル者ノ名  
ハ日ニ高ク確乎ト世上ノ意見ヲ支配シ漸次ニ之ヲ  
ノ作為ヲ勸カスニ至ル凡此等ノ碩儒ノ意見ノ不  
換紙幣ノ天下国家ヲ讓スノ因源タルノ一事ニ至リ  
ハ各自其説ヲ同セリ是則數十年間再三再四実地ノ  
經驗ヲ遂テ其害タルハ共ニ公認スル所ナリ今日水  
ノ通貨ハ不交換紙幣ナレバ日本人民ハ將ニ此倒懸  
ノ苦害ニ罹ラントスルモノナリ其日ニ損害ヲ受ク  
ルノ事実ハ前号既ニ余カ開陳スル所ナリ  
日本國ニ於テ初メ造幣局ヲ設立スルヤ其鑄造ニ著  
手スルニ先テ第一ニ注目スヘキノ要領ハ通用幣ヲ  
シテ鞏固タル基礎ニ居ヘルニ在ルベキニ日本人民  
ハ顧フニ何人モ此至大至要ノ真理ヲ判然ト其胸中

ニ明解スル者ナキニ似タリ汝日本人民ヨ汝ハ政府  
會計困迫ノ日ニ際シ其一時ノ急ヲ救ヒカ為ニ幾多  
ノ鉅額ヲモ追加發行シ得ヘキ不交換紙幣ヲ使用ス  
ルナラハ造幣局ヲ起シテ貨幣ヲ鑄造シ之ヲ何等ノ  
用途ニ充ツルヤ果シ其要路ナカルヘシ貨幣ハ鑄造  
スルヤ否忽チ他邦ニ脱走スヘシ其理由ハ平素常人  
ノ眼ニ明解シ難シト云ヘ其其新タニ貨幣ヲ發  
行スル毎々既ニ世ニ流通スル所ノ紙幣ノ額量ニ  
比例シテ其價格ヲ減落スル者ナリ蓋シ此減落ハ固  
ヨリ人目ニ觸レズ或ハ無識ノ輩ニハ何ニ曰テ其破  
証ヲ見ル可キヤ肯テ其方向ヲ知ラス然レ其事理  
通曉セル者ノ眼ヨリ之ヲ見ル片ハ紙幣ノ出額多  
カ為ニ百價ノ價格騰貴シ之ニ因テ通貨ノ減落シ



ルハ得テ知ルベキナリ是ニ於テ更ニ外國ヨリ低價  
ノ物貨ヲ輸入スルノ意ヲ勸登セシメ随テ其代價  
償フニハ金貨ノ輸出ヲ以テセリ  
是故ニ造幣局ヲ設立スルモ全國通貨ノ制度其  
宜ニキテ得ルニアラサレハ其效用ハ唯ニ銅貨或ハ  
度位銀貨ヲ鑄出スルニ止リテ敢テ永久ノ良圖ノ用  
ニ便シ難キヲ明々タリ數年前意太利國ハ其造幣局  
ヲ置クハ大ニ失敗ノ源目タルヲ登見セリ是ヨリ先  
談國ハ物價ノ昇降ヨリシテ甲乙互ニ損得ヲ招カス  
民間日用ノ取引ヲシテ必定ナラシメント欲シ巨額  
ノ貨幣ヲ鑄造セリ然レト同國ハ爾後幾ハクナラス  
シテ大ニ紙幣ヲ造製シ是ニ於テ自然其通貨ノ額量  
ヲ増加ナラシメ随テ金銀貨幣ハ直ニ談國ヲ去テ他

ナニシ

邦ニ赴ケリ日本ニ於テ事物ノ景況今日ノ儘ニテ維  
続スルハ實ニ我輩ハ日本通貨ハ絶ヘス造幣局ト  
離別スルヲ見ルヘシ  
今此ノ弊ヲ治スル方只一策アリ其方策何クヤ則チ  
紙幣ト正貨ト交換ノ策ヲ設クルニアリ是故ニ今爰ニ疑  
問ヲ起サレ然ラハ今日日本國ハ遠カラサル内ニ此交  
換ノ法ヲ起スヘキノ位置ナルヤ其明徴如何ソヤ  
吾輩ハ此問題ニ答フルノ確証ナキニ苦シムナリ然  
レニ強チ之ニ答フル徴証ナキニシモアラス吾輩曾  
テ確報ニ就テ聞ク談國ノ一縣唐馬島縣ノ如ク全  
銀貨幣ト紙幣トノ間ニハ毫モ差ナク平等ニ流通  
リト一縣若シ然ラハ他縣ニ於ケルモ亦然ラシ  
紙幣價ノ格外ナルハ結局生糸市場ノ景氣ノ近手



曾有ナルカ為其需用繁縷ナルニ出ルニモセヨ其  
行以來數年間ハ尋常市上ノ取引ニ於テモ紙幣ノ  
貨ト平等ニ通用セリ是則前日流通セシ紙幣ノ故  
過額ナリサルノ明証ナリ蓋紙幣ノ發行過當ハ  
其金貨ニ對シ割引ヲ生スルハ自然ノ道理ナリ惟  
三十年以前ニハ威權ヲ以テ金貨ト之ヲ平等ニ流通  
セシメタルニセヨ政府モ今日ニ於テハ其發行多キ  
ガ為ニ自然低落スル勢ヲ防碍スル能ハザラン然ラ  
ハ我輩ハ今日日本紙幣ハ金貨ニ對シ割引ヲ生スル  
ガ如ク其發行ノ過額ナラサルヲ決ス  
然レト人アリ又爰ニ一問題ヲ起サン今日日本邦内  
ニ流通スル紙幣ノ總額ハ九千万圓以上ニアラサル  
ナキヤ今日其大藏省ニ準備スル如キ斯ル僅々タル

三十四

正貨ヲ以テハ此巨額ノ紙幣ヲ交換シ得ル者ト公言  
シ得ルヤ  
我輩之ニ答テ謂ハン此巨大ノ紙幣ノ中三千二百  
圓ハ分數紙幣ナリ是レ則日用民間衣食需用ニ要ス  
ル所ナリ即日耳曼製造ノ新札二千七百万圓又逐次  
交換スベキ所ノ旧札ノ殘額殆ト五百五十万圓論  
此等ノ需用ハ算入スルニ及ハサルナリ此等ノ分數  
紙幣ハ正貨ノ如ク容易ク手ヲ經テ流通スルモ  
ノニ極メテ有用ナル者ナリ論ヲ俟ス故ニ此紙  
幣ハ三四日ノ價アル者ヲ所持スルモノ之ニ  
銀貨ト交換セシトハ夢ニタモ見ルモ  
然ルニ又大藏省金庫中ニハ平常収税ヨリ入ル所



巨額ノ貨幣ヲ存スヘシ而シ此額ハ時依テ多ク少ク  
ルベシト金匱ヲ三百萬圓ヨリ少ナカラス千百萬圓  
ヨリ多カラサルベシ我輩ハ今最少ナル者ヲ以テ  
算ヲ立ベシ

分數紙幣

三千二百四十萬圓

大藏省ニ存スル紙幣

三百萬圓

今世上ニ流通スル者九千萬圓ノ中ヨリ此二項ノ合  
計三千五百四十萬圓ヲ引去ル時ハ今算計スベキ  
ノハ残り五千四百六十萬圓ナリ

然レ此之ヲ以テ尚金數ト言難シ輒近出ス所ノ會計  
録ニ據レハ大藏卿ハ刻苦精覈スルモ旧藩札ノ精  
ヲ知ル能ハサル者ヲ陳述セリ尚且旧藩々ヨリ曾テ  
新政府ノ引受タル藩札ノ正額ハ明年七月ニ至ラサ

レハ之ヲ知ル能ハサルベシ政府ハ曩者其交換スヘキ  
者ト交換スヘカテサル者トノ制限ヲ立タリ然レ此  
藩札ト金モ我輩ノ曾テ臆想セシ如キ巨額ナラサ  
ヲ信スルノ理アリ而シテ上ノ總額五千四百六十萬圓  
中ヨリ其端數四百六十萬圓ヲ以テ旧藩々札交換分ト  
見做レテ之ヲ引去ルルハ曾テ思惟セシ如ク日本紙  
幣ノ景況最悪ノ事情ナラサルヲ信ス然ル時ハ爰ニ  
五千萬圓ノ殘額アリ是我輩ノ論辨ヲ費サレバカ  
ラザルヲ得サルモノナリ  
扱行紙幣ノ總額三萬一乃至半額ノ正金ナリ  
局ニ準備シ以テ其交換ニ充ル時ハ交換紙幣ニ危  
ヲ生セサルハ普通ノ定説ナリ然ラハ我輩断然言  
フ日本政府ハ其會計局中ニ貳千五百萬圓ノ正債

紙幣ノ半額  
ナ二千五百  
萬圓ト云



準備セサルヲ得ズ若シ然ラカレハ紙幣ノ健全ハ此  
モ保シ難シ是則世人ノ通論ナリ然ラハ此正債ヲ準備  
スルニハ如何ナル方便ニ因ラシカ我輩ノ推定  
ル所ニハ現今大藏卿ノ掌中ニ在ル正債ノ額  
殆ト一千六百萬圓ヲ出サシハコレト雖モ  
計預算簿ノ顯出スルニ至ルマテハ確然保シ難シ然  
レモ我輩ノ臆測スル所ニ據レハ日本政府ノ會計ノ  
都合甚ク悪シカラザレバ右金額大藏省金庫中  
準備シ在ルモノト假定スル時ハ尙爰ニ先備セサル  
ベカラザルモノ九百萬圓アリ之ヲ準備スルニ方テ  
頗ル困難アラシク信ス然レモ不交換紙幣ヨリ  
生スベキ所ノ大害ヲ免カレト欲スルニハ一モ容  
易ナル道路ナカルベシ汝日本國今日ノ有様如キ

二十六

至難至困ノ位置ニ居テハ堅忍不拔百折撓マシタト  
ト他國ノカチ假ルモ必至刺舌スルニアラザレバ此  
窮域ヲ免カル、能ハザルナリ然レモ汝碎身粉骨  
ク此險難ヲ堪忍セハ他日倒懸ノ苦ニ掛ルノ大災ヲ  
將來ニ妨碍スルヲ得ハシ我輩惟フニ日本政府カ今  
此九百萬圓ノ準備ヲ為スニハ宜シク外債ヲ起スル  
外他ニ良便アルヲ見ス我輩ハ日本人民ノ衆論ハ皆  
此方策ニ抗スルヲ知ル其心情ハ實ニ紆スルニ足レ  
リ是則其既ニ掛ラシトス、倒懸ノ苦惱ヲ、解カ  
シム、シ、氣象アル、徴ス、シ、ニ、ヒ、テ、恐、  
心志ヲ抗スルモノハ我輩而已ナラシ  
夫レ僅々附カスル外債ノ荷物ハ之ヲ不交換紙幣  
重荷ニ比フシハ恰モ鳥毛ノ輕キカ如シ斯ノ如キ四



度ニ先ル為ノ外債ノ困窮ヲラザルハ賢明輩ノ常  
言フ所ナリ而シテ外債ヲ起シテ却テ國益ヲ振興セ  
例古來少ナカラス然レモ賢明輩カ不交換紙幣ヲ  
行フ益ヲ起シタル言ハシテ聽カス今要ムル  
ノ外債ハ我輩カ陳ハル如キ九百万日圓至ラズ  
足ルベシ其理下條ニ明ラカナリ  
近來政府ハ華士族祿券ヲ發行セシメ目テ其歳入ニ  
ハ年々八百万日圓乃至九百万日圓ノ所得ヲ加フベシ  
モ若シ之カ為ニ地租ヲ減スルニアラサレハ吾輩今  
日ニ於テ地租ヲ減スルノ徵ヲ見ス紙幣ノ通額ヲ減  
却スルノ路ニ使用スルヲ以テ最上ノ策トス而シテ  
國需用通貨ノ不足ト不足ナラサルトハ賣買市場金  
銀ト紙幣トノ間ニ差ヲ生スルト否トヲ以テ亦定ス

十三七

ルヲ得ヤレ年々入ル所ノ一千萬日圓ヲ以テ新々用フ  
ル時ハ會計局ノ金庫中ニ準備スベキ定額モ次萬ニ  
減少シテ可ナルベシ何ントナレハ事物ノ安危ハ  
キニ近ツケハ益々危ク安キニ近ツケハ益々安ケレ  
ハナリ  
前号予カ既ニ論セシ如ク日本國ノ事情ニ取テハ  
債ヨリ銀債ヲ以テ通貨ト為サバ其利明々タリ又然スル  
ハハ度ニ実況巴メント欲シテ能ハサルヨリ起ル所ノ大利  
益アリ是則紙幣ニ對シ幾多ノ正債ヲ準備セザルベ  
カラザレノ問題ニ答ルニ緊要ノ解明者ナリ  
銀債ハ金債ニ以スレハ其重キト霄壤ノ差アリ且  
人ト金モ十磅金債ニ代スルニ容易ク交換シ得ル  
五磅札ニ枚ヲ得ルノ方便アラハ何ソ十磅ノ金債



荷ハシヤ況シヤ十磅ノ價トアル銀貨ニ於テチロ明  
屋賣買ノ如キ最大ノ取引ニ至テモ亦然ラレ凡ノ何  
人ト金モ時勢困難ニ迫ル片ハ其帶ル所ノ紙幣ハ  
請スレ直ニ銀貨ト交換スレテ得ハキヲ確知スレ  
時ハ假令貿易上不信用ノ事情起ルニ際シテ其六七  
月ノ間ハ交換ノ正貨夥シカルベシト金モ一時其危  
急ヲ過レハ交換ヲ乞請スルヲ漸ク減サスルニ至ラ  
ン此窮困ニ際シテ能ク其用度ヲ辨シテ一回帝國  
民ノ倚信ヲ失カル時ハ正貨ノ需求ハ金貨ノ小位夕  
ル時ヨリ夙カニサナカラシ  
我輩前條ニ示セシ如ク紙幣交換ノ法畧ヲ論述セ  
カ尚矣ニ一難事アリ何ソヤ當時人民ノ埋藏セル紙  
幣額多分ナルハシ今若銀貨交換法ヲ開キテ其交

換陸結トノ出ツベシ此需求ヲ辨セシカ為ニ假令  
ハニ朱ノ如キ安利ノ銀札ヲ以テスハシ但此証券ハ  
何時持來ル共差支ナク正貨ト交換スルヲ要ス此  
策ヲ施ス片ハ埋藏家ハ空ク之ヲ埋没セシヨリハ寧  
口利子ニ戀々シテ逐次ニ其埋藏金ヲ出スニ至ルハ  
シ凡ソ何等ノ困ト金モ貯藏シテ世上ニ流通セホ  
者必ス有ルハキモノナリ東方亞細亞地方ノ如キハ  
埋藏ノ風習殊ニ盛ナリ驛途寮積金預所ハ漸次埋藏  
金ヲ誘出スルノ基ヒテ開テハシ然レモ千八百七十  
五年間驛途頭ノ報告ニ據ルハ將來尙數年ノ所  
其委託金ノ愈々盛大ニ赴クノ望非ナキヲ徵セリ  
我輩前号ニ於テ説明セシ所ノ銀貨ヲ以テ日本銀貨  
水位ト爲シ情實已ムヲ得サレ時ハ英國倫動ニ於テ



一百五十万乃至貳百万磅、外債ヲ起サハ政府、某年月ヨリ二年乃至三年ニシテ全国浮流スル所紙幣ハ悉ク銀貨ト交換スヘシト公言スルヲ得ルニ然ルルハ日本國ハ大ニ其國勢ヲ増大ナラシムルニ至ラナラス東方亞細亞洲ニ於テ頗ル信任ヲ得ルニ至ラシ是ニ於テ紙幣ハ死セル者ガ蘇生スルカ如ク意氣揚々ト全國ヲ翱翔シ國中ノ負債人モ亦債主各々其所ヲ得テ取引約束上前代未曾有ノ鞏固ノ約束トモ惟スヘケレ当世ノ英人ハ未タ曾テ朝暮ニ價格ノ升降スル通債ヨリ生スル所ノ禍害ヲ見サルモ試ニ澳地利意太利及西班牙ノ人ニ就テ其景況ヲ問フハ或ハ又斯レ災害ヲ実験セサル者ハ「ロルト、マコーレー」氏ガ記述シタル「ウエレ」王三世ノ代ニ方テ不交

ナ二十九カ

換紙幣ノ一件ヨリ生シタル國亂ノ模様トス通債ノ景況ヲ復シテ之カ為ノ全国人民ヲ水火ノ中ヨリ救フタルノ情況ヲ熟詭甘味セヨ然ラハ文明ニ進歩スル社會ノ妨害ヲ為ス者ハ何人モ信用セサル通債ノ如キモノ恐ラク他ニ非類ナカラシテ了解スヘシ爰ニ注目シテ之ヲ救フノ手段ヲ謀ル、日本政事家ハ實ニ蓋世ノ功ヲ奏スヘシ「ウエブストル」氏曰ソレ尋常淺慮壓制ヲ恣ニシ聚斂ヲ厚フシテ人民ヲ困シマシムルモ其國家ノ安寧幸福ニ関スルノ權衡ハ之ヲ朝々暮々ニ昇降スル通債ト低落シタル紙幣ノ為ニ犯サル、奪掠トニ以テハ復カニ輕シト



